

オーディオ実験室収載

FAL スピーカー試聴記

はじめに

オーディオ西方浄土に掲載された FAL の訪問報告に興味をもち、村井さんにご紹介いただき FAL の試聴室を訪問したことは先に報告しました。

<http://audioniravana.blog.ocn.ne.jp/nishinoblog/2007/12/index.html>

http://audioniravana.blog.ocn.ne.jp/nishinoblog/2008/03/post_0740.html#comments

http://audioniravana.blog.ocn.ne.jp/nishinoblog/2008/03/post_ef87.html#comments

この拙文を見られて K 谷さんが是非試聴したいと希望され、二人で計画を練り、さらに JJ 工房のメンバーにも呼びかけて二日間にわたる試聴会が実現しました。以下、何回かに分けてご報告いたします。

FAL スピーカー試聴記 (その 1)

「オーディオのことは後期高齢者に聞け」

機器のことを知る前には、そのメーカーのオーナーを知るべしということで、まず FAL の古山社長のキャリアーから書き始めてみます。

「どういっかけてこの世界に？」と言う問いに関しては、ご尊父が電気蓄音機の店を営んでいたことから、そのお仕事を継承されたということだそうです。その後の経過は FAL の site に記されています。

<http://www.fal.gr.jp/others/profile.html>

また、景山式の平面ユニットとの出会いは、一個しか残っていなかったユニットにめぐり合い、扱っていた ESS ハイロドライバーに付加価値をつけるマッチングではこれしかないと思われ、以後その改良に取り組んできたとのこと。

その改良の歴史の蘊蓄は直接お会いして聞かれるのが一番でしょうが、ポイントを要約すると以下のとおりです。また、ハイロドライバーについても改良がなされているとのこと。

発泡ポリスチレン振動板による軽量化

ポリスチレン振動板の発泡サイズの均一化

ポリスチレン振動板表面の鳴き止め

人工皮革のエッジ (ウレタンからの変更)

ダブルエッジ (振動板のねじれ防止)

ネオジウムマグネット (フェライトからの磁束密度の向上と耐熱性の向上)

ボイスコイル材料の選択と巻き方

フィンランドバーチのキャビネット

パッシブラディエーターの追加

なお、お話は、FAL のスピーカーに留まらず、業界裏話やオーディオ界の先達との交流、世界のオーディオビジネスの現状など留まるところを知らず、日本のオーディオ業界の現状に比べ、香港や新興 EU 圏の国々での活況は羨ましい限りです。また、著名真空管アンプの再チューニングのポイントなど、他メーカーの機器についてもお詳しいようです。

最近後期高齢者の仲間入りをされたとのことですが、長年鍛えた耳は確かで、ご指摘は的を得ているし、盤の録音の解説も詳しく、まさに情報の蓄積効果です。

なお、食事もご一緒させていただきましたが、西方浄土に出ていたお写真のみかけと大違いで酒、煙草は一切縁がないということです。若い時に大病を患い、そのきっかけを失ったということですが、みずから運転しての重量物の配送、深夜に及ぶ製作やチューニングなどはこういう節制の賜物でしょう。前期高齢者の K 谷氏ともども恥じ入るばかりでした。

美音を求めつつも、さらに美食、美酒を欲張るオーディオマニア、試聴会よりその後の飲み会目的のオーディオマニア、いつもヘロヘロしているマニア達のオーディオ人生は長くないということでしょうか。

FAL のスピーカーとセットで聴かされた OTL アンプのマックトン、DAC の日本オーディオなど、その創始者はいずれも日本のオーディオの開拓者であり、その音たるやノスタルジーとはほど遠く最新のデジタルサウンドをリードしているものであることは後の報告で述べることにしますが、まさに健康的でエネルギーに満ちたものでした。妙に病的で神経質なハイエンドや、いかにもマッチョマッチョしたドーピングサウンドとは一線を画するものです。

つまり、「健康とオーディオのことは後期高齢者の先達に聞け」ということです。

以上